

## ティーチング・ステートメント

所属 臨床工学科  
名前 渡邊翔太郎  
作成日 2019年7月27日  
更新日 2023年3月22日

### 【責任】

臨床工学科に所属し、臨床工学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は臨床工学関連科目（医療工学概論（1年）、工学系実験科目（2年）、臨床工学系実習（3年）、臨床実習前指導（3年）、国家試験対策科目（4年）など）の担当、卒業研究の指導、1年生のクラス担任である。

### 【理念】

知識・技術を持ち患者に寄り添える臨床工学技士を養成することを理念とする。また、医療技術は日々進歩しているため、常に最新の知識と技術を身につけることができるよう学び続ける姿勢と向上心を持って欲しい。さらに、医療機器を扱うことだけが臨床工学技士の仕事ではなく、常に患者に寄り添う心や態度が必要である。患者は医療機器ではなく、医療機器を操作する「人」を信頼し治療を受けていることを忘れずに勉学に励んで欲しい。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するために、学生が「臨床工学を楽しく学ぶ」、「正しい理論と方法で実践できる」、「医療人としての心構えや誇りを持つ」、という方針で教育をしている。

#### 「臨床工学を楽しく学ぶ」

- 臨床工学は医学と工学の学際的な学問であり、それらは広く深く関連している。そのため、どちらか一方に苦手意識があると理解が難しく、ひいてはつまらなくなり修学が遅滞する。また、臨床現場や医療機器を見たことがない学生にとっては、それらを机上だけで理解することは難しい。苦手意識を持たず楽しく学べるように、イメージを掴むことが容易な視覚教材や実物を見せるように講義を展開している。また、毎回の授業で関連する国家試験の過去問題を解くようにし、実践的に学べる工夫をしている。
- 国家試験の対策をしている中で、一度わからないことが出てくると、その後の理解につまずく。そのような場合はチームティーチングを行い、授業時間内で学生がわからないことはなるべく解消できるよう努めている。

#### 「正しい理論と方法で実践できる」

- 実験や実習は、その概要や方法を一通り教員から説明した後、学生が主体的に取り組むよう展開している。しかし、中には実験がうまくいかない学生や、手順を間違えて行っている学生もいる。正しい方法と理論で実践できるように、実験・実習中は常に学生の側にいるようにして、質問を受けられるようまたは注意できるように努めている。

#### 「医療人としての心構えを持つ」

- 臨床実習前の指導科目の中で、医療人としての心構えや態度を指導している。それらは、最終的に OSCE（客観的臨床能力試験）によって評価している。OSCE では、臨床実習を履修するにあたり必要な基本的技能および患者への態度を評価し、これらの技能と態度が身につけていないと、改善を指導し、再学習させ、医療従事者に必要な豊かな人間性を獲得することを教育している。

### 【評価・成果】

- 13 科目を担当し、授業改善アンケートの全科目で 7 割以上の学生が満足と回答している。
- 毎月実施している国家試験の模擬試験で担当分野の平均点が向上している。
- OSCE 実施後のアンケートでは、「臨床実習前の不安が解消された」、「必要な知識・技術が再確認できた」など肯定的な結果が多いことが示されている。
- 研究分野で学生が興味・関心を持ち、学生自らが関連分野の、情報収集を行っている。

### 【目標】

#### 「短期」

- 全国統一模試の情報工学の学内平均点を全国平均点以上にする。
- 国家試験合格率を全国平均点以上にする。
- 学生の学会発表を継続的に指導する。

#### 「長期」

- 単なる国家試験対策ではなく、現場で実践できる知識と技術を養成する授業を展開していきたい。
- 自身の研究活動を通して、社会からの要請に答えられる優秀な臨床工学技士を継続して輩出していきたい。